

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：11月レポート

稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 主席研究員）
野村亮輔（研究推進部）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:nomura-r@apir.or.jp

ポイント

● 12月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶ JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表1)、**11月の総数(推計値)は56,700人で、14カ月連続のマイナス(前年同月比-97.7%)**。11月1日に日本政府が中国(香港、マカオ含む)、韓国やベトナムなど9カ国・地域の感染症危険度をレベル3(渡航中止勧告)からレベル2(不要不急の渡航中止)に引き下げたこともあり、訪日外客数は前月(27,400人)から増加した。

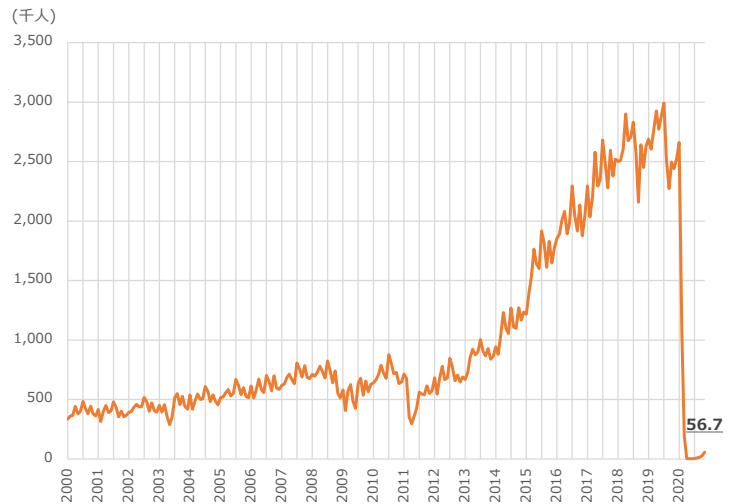
▶ 訪日外客数を国・地域別にみると、トップ5は中国が18,100人、ベトナムが14,700人、インドネシアが3,400人、韓国が2,800人、フィリピンが1,700人であった。依然低水準が続いているが、中国とベトナムからの訪日外客数は1万人を超え、2020年3月以来の水準となった。

▶ 東アジアからの訪日外客数の伸びをみると、中国、台湾、香港は10カ月連続、韓国は17カ月連続の前年比マイナス。12月以降も一部の国・地域では入国規制の緩和が継続される予定だが、世界的にCOVID-19の感染が再拡大していることから、今後の訪日外客の動向には不確実性が高く、引き続き注視が必要である。

▶ JNTO 訪日外客統計を目的別にみれば(図2及び表2)、**9月の総数(暫定値)は13,684人(前年同月比-99.4%)**となった。うち、**観光客は497人(同-100.0%)**、**商用客は1,317人(同-99.1%)**、**その他客は11,870人(同-94.2%)**であった。伸び率を見れば、観光客、商用客は12カ月連続、その他客は8カ月連続といずれもマイナス。9月は在留資格を持つ訪日外客の再入国が全面緩和されたこともあり、特に留学目的などを含むその他客が前月(7,474人)から増加し、1万人を超える水準となった。

▶ 9月の目的別国・地域別のトップ5をみれば、**観光客**では米国が128人、中国が74人、韓国が46人、英国が24人、フィリピンが17人であった。**商用客**ではタイが389人、中国が254人、台湾が132人、韓国が116人、米国が97人であった。**その他客**では、ベトナムが2,674人、中国が2,626人、韓国が1,264人、タイが635人、台湾が618人であった。いずれの目的においても前年比大幅マイナスが続いているが、10月以降、一部の国・地域からの**ビジネスや留学目的での入国規制が一定条件下で緩和**されているため、**商用客及びその他客の増加が見込まれよう**。

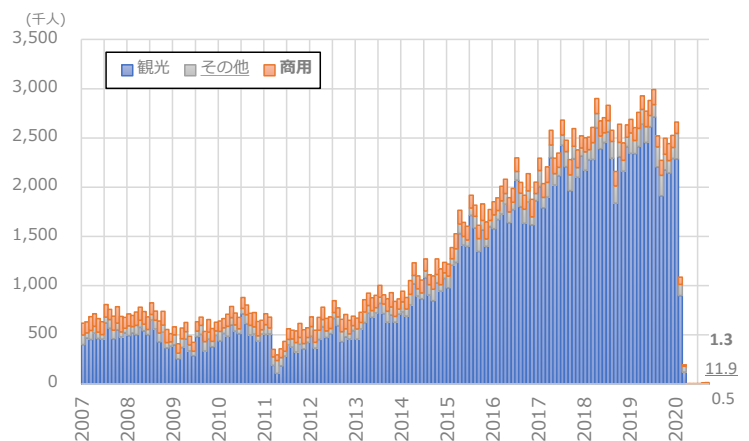
図1 訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

注) 2019年:確定値、20年1~9月:暫定値、20年11月:推計値

図2 目的別訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成

注) 「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

*本レポートで使用している観光庁「訪日外国人消費動向調査」の統計調査が現在行われていないため、2020年11月公表分レポートより内容を一部変更していることにご留意頂きたい。

トピックス 1

● 11月関西の財貨・サービス貿易の動向

▶ 11月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は**11,945人**であった(前年同月比-98.2%)。伸びは10カ月連続のマイナスで依然大幅な減少が続いているが、**2020年3月(35,696人)以来の水準となった**(図3及び図4)。11月以降、中国(香港、マカオ含む)、韓国、ベトナムなど9カ国・地域からの入国制限が緩和されたことが影響した。

一方、日本人出国者数は3,451人で同-98.9%と11カ月連続で減少しており、アウトバウンドは依然低調である。

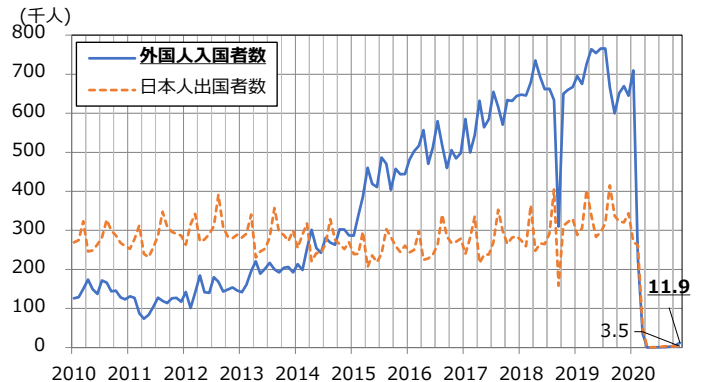
▶ 関空への訪日外客数減少によるインバウンド需要の損失額を試算してみる。2019年の2府8県の外国人消費額(確報ベース)は1兆2,127億円であるため(APIR推計)、20年11月の損失額は993億円(= 12,127/12 × 関空への訪日外客数の減少率)と推計される。**結果、2-11月期インバウンド需要の損失合計は9,678億円となる。**

▶ 図4は関空訪日外客入国者数の動態をリーマンショック期、東日本大震災期と今回の3つの時期で比較したものである。東日本大震災期ではショック後10カ月の経過でプラスに転じているが、COVID-19ショックでは引き続き大幅なマイナスが続いている。11月は一部の国・地域の入国制限を幾分緩和したが、欧州を中心としたCOVID-19感染再拡大の影響から先行きの不確実性は高く、訪日外客数の回復にはしばらく時間がかかるだろう。

▶ 関西11月の輸出総額は前年同月比-4.0%減少し、**2カ月ぶりのマイナス**(前月:同+2.3%)。対中輸出の伸びの鈍化が影響している。輸入総額も同-12.9%と14カ月連続のマイナス(前月:同-9.0%)。結果、**関西の貿易収支は2,171億円と10カ月連続の黒字**となり、黒字幅は前年同月比+95.8%拡大した。また、貿易総額(輸出入合計)は同-8.2%減少し、2019年9月を除けば18年12月以降縮小が続いている。なお、マイナス幅は前月(同-2.9%)から拡大した(図5)。

▶ 対中貿易動向をみると(図6)、関西11月の**対中輸出額は前年同月比+3.3%**と伸びは**6カ月連続のプラス**だが、**伸びは前月(同+11.9%)から縮小した**。好調であった半導体等電子部品の減少(同-24.9%)が影響したようである。また、対中輸入額は同+3.8%増加し5カ月ぶりのプラス。

図3 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。2020年11月値は速報値(図4も同様)。

図4 経済ショックからの回復の比較

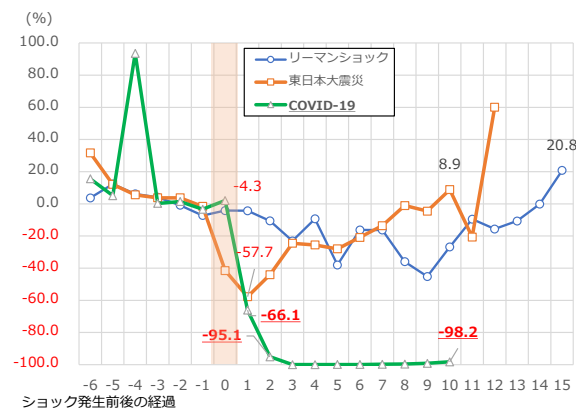


図5 関西 対世界貿易の推移

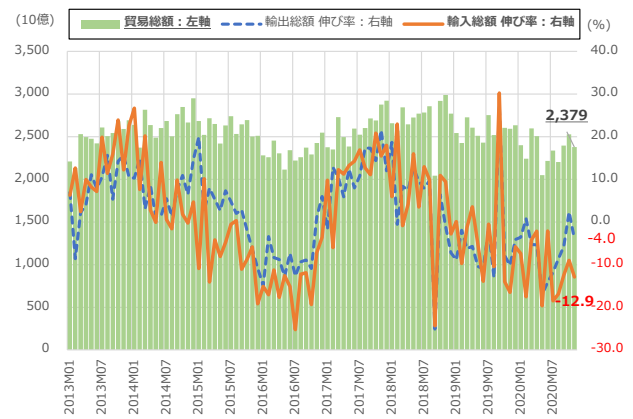
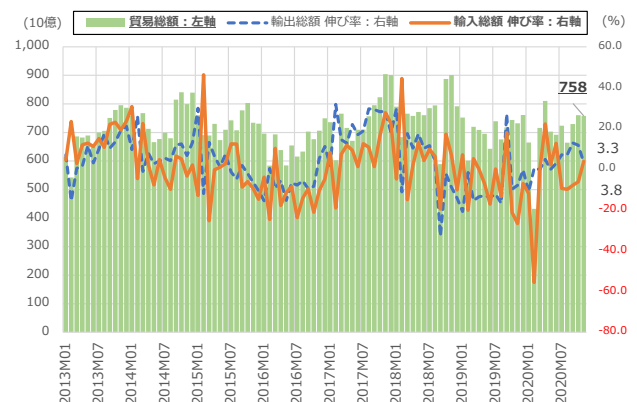


図6 関西 対中貿易の推移



出所:「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」より筆者作成

トピックス 2

●9月 延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶9月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は8カ月連続の前年同月比マイナス(同-52.1%)。COVID-19感染再拡大が落ちていたことに加え、9月後半の連休もあり、マイナス幅は前月(同-63.3%)から縮小した。なお、10月からGo Toトラベルキャンペーンの対象に東京都が加えられていることから、宿泊者数の増加が見込まれよう。

▶うち日本人延べ宿泊者数をみれば、4,665.2千人泊で伸びは9カ月連続の前年同月比マイナス(同-36.4%)だが、前月(同-53.2%)よりマイナス幅は縮小(図7)。府県別に延べ宿泊者数が多い順でみれば、大阪府が1,211.1千人泊(同-51.1%)、京都府が1,005.3千人泊(同-34.5%)、兵庫県が796.9千人泊(同-22.3%)、三重県が449.5千人泊(同-25.3%)、和歌山県が300.4千人泊(同-18.1%)、滋賀県が263.0千人泊(同-31.4%)、福井県が198.0千人泊(同-44.7%)、鳥取県が165.1千人泊(同-24.7%)、奈良県が144.6千人泊(同-18.4%)、徳島県が131.4千人泊(同-33.3%)であった(図8)。各府県とも伸びは依然マイナスだが、マイナス幅は前月から縮小した。

▶うち外国人延べ宿泊者数をみれば、30.7千人泊となり8カ月連続の前年同月比マイナス(同-98.8%)で引き続き厳しい状況が続く(図9)。府県別に多い順でみれば、大阪府が16.5千人泊(同-98.7%)、京都府が5.8千人泊(同-99.4%)、兵庫県が3.4千人泊(同-96.4%)、滋賀県が1.2千人泊(同-95.7%)、奈良県が0.9千人泊(同-97.9%)、和歌山県が0.9千人泊(同-98.3%)、三重県が0.7千人泊(同-96.8%)、鳥取県が0.6千人泊(同-93.8%)、福井県と徳島県がいずれも0.4千人泊(同-94.3、同-96.2%)であった(図10)。各府県とも依然90%を超えるマイナスとなっており、外国人延べ宿泊者数は低調が続いている。

▶9月の延べ宿泊者数(関西2府8県ベース)の減少幅から(関西の)国内旅行消費額の損失額を推計すると、約1,254億円となる(=4.1兆円/12×関西の延べ宿泊者数の当月の減少率)。結果、3-9月期の損失額は約1.4兆円となる。また、10月速報値を考慮した延べ宿泊者数(全国ベース)の減少幅から(全国の)国内旅行消費額の損失額を計算すると、約3,138億円となる(=21.9兆円/12×全国の延べ宿泊者数の当月の減少率)。結果、3-10月期の損失額合計は約7.6兆円となる。

図7 関西 日本人宿泊者数の推移

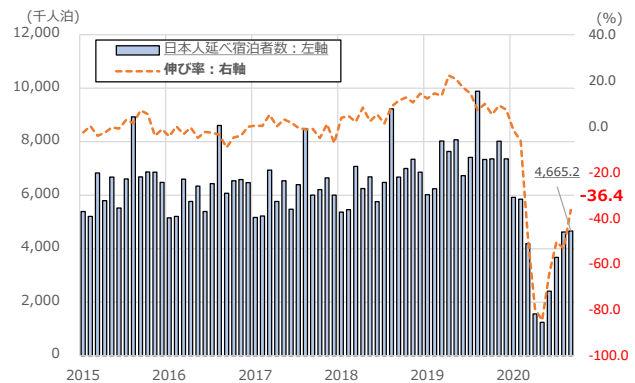


図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

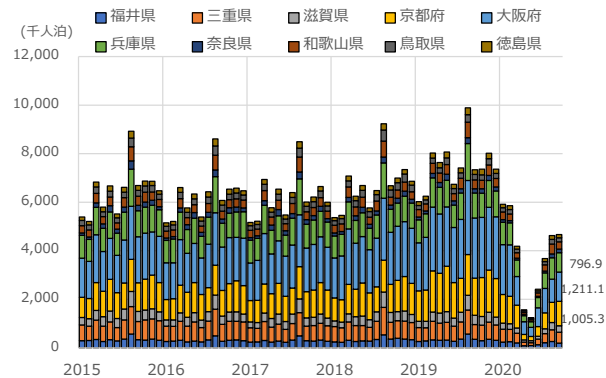


図9 関西 外国人宿泊者数の推移

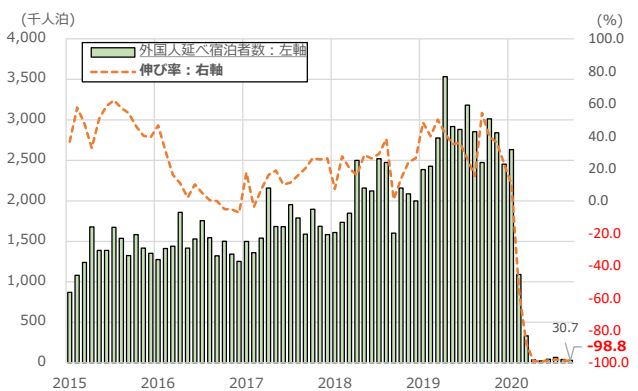
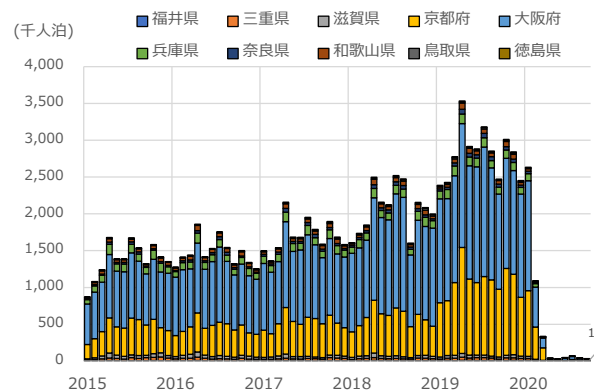


図10 府県別外国人延べ宿泊者数 推移



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図7~10)

表1 2020年11月 訪日外客数 (JNTO 推計値)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2019年	2020年	伸率(%)	2019年	2020年	伸率(%)
	11月	11月		1-11月	1-11月	
総数	2,441,274	56,700	-97.7	29,355,662	4,057,200	-86.2
総数(韓国・その他除く)	2,126,714	45,760	-97.8	22,805,746	3,377,780	-85.2
韓国	205,042	2,800	-98.6	5,336,638	485,100	-90.9
中国	750,951	18,100	-97.6	8,884,160	1,050,800	-88.2
台湾	392,102	1,200	-99.7	4,542,333	693,600	-84.7
香港	199,702	500	-99.7	2,041,150	345,800	-83.1
タイ	140,265	1,000	-99.3	1,154,041	219,100	-81.0
シンガポール	65,295	200	-99.7	391,876	55,200	-85.9
マレーシア	64,987	400	-99.4	423,342	76,200	-82.0
インドネシア	37,213	3,400	-90.9	353,576	74,400	-79.0
フィリピン	64,763	1,700	-97.4	531,572	106,800	-79.9
ベトナム	41,892	14,700	-64.9	464,445	136,900	-70.5
インド	14,863	1,000	-93.3	164,157	25,300	-84.6
豪州	48,327	300	-99.4	549,118	143,400	-73.9
米国	148,993	1,100	-99.3	1,579,363	217,900	-86.2
カナダ	33,316	100	-99.7	340,130	53,100	-84.4
メキシコ	6,494	60	-99.1	65,246	9,480	-85.5
英国	37,709	300	-99.2	396,529	50,700	-87.2
フランス	24,290	500	-97.9	316,072	42,600	-86.5
ドイツ	19,525	300	-98.5	222,905	29,500	-86.8
イタリア	12,350	100	-99.2	151,573	13,500	-91.1
ロシア	13,142	700	-94.7	111,210	21,900	-80.3
スペイン	10,535	100	-99.1	122,948	11,600	-90.6
中東地域	9,836	200	-98.0	89,606	7,700	-91.4
その他	99,682	7,940	-92.0	1,123,672	186,620	-83.4

表2 2020年9月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2019年	2020年	伸率(%)	2019年	2020年	伸率(%)	2019年	2020年	伸率(%)	2019年	2020年	伸率(%)
	9月	9月		9月	9月		9月	9月		9月		
総数	2,272,883	13,684	-99.4	1,913,105	497	-100.0	154,051	1,317	-99.1	205,727	11,870	-94.2
韓国	201,252	1,426	-99.3	152,617	46	-100.0	21,633	116	-99.5	27,002	1,264	-95.3
中国	819,054	2,954	-99.6	705,154	74	-100.0	33,159	254	-99.2	80,741	2,626	-96.7
台湾	376,186	767	-99.8	354,624	17	-100.0	10,766	132	-98.8	10,796	618	-94.3
香港	155,927	89	-99.9	150,763	6	-100.0	3,395	12	-99.6	1,769	71	-96.0
タイ	62,057	1,038	-98.3	54,621	14	-100.0	3,310	389	-88.2	4,126	635	-84.6
シンガポール	29,147	30	-99.9	25,124	3	-100.0	3,435	6	-99.8	588	21	-96.4
マレーシア	28,778	242	-99.2	23,871	3	-100.0	2,525	8	-99.7	2,382	231	-90.3
インドネシア	25,021	299	-98.8	17,652	9	-99.9	2,475	4	-99.8	4,894	286	-94.2
フィリピン	37,758	134	-99.6	30,576	17	-99.9	2,565	6	-99.8	4,617	111	-97.6
ベトナム	38,325	2,698	-93.0	9,383	6	-99.9	3,466	18	-99.5	25,476	2,674	-89.5
インド	15,895	389	-97.6	6,269	4	-99.9	6,054	12	-99.8	3,572	373	-89.6
豪州	60,498	88	-99.9	55,570	13	-100.0	3,593	8	-99.8	1,335	67	-95.0
米国	127,190	632	-99.5	100,459	128	-99.9	19,973	97	-99.5	6,758	407	-94.0
カナダ	28,525	69	-99.8	25,379	14	-99.9	1,934	6	-99.7	1,212	49	-96.0
メキシコ	6,282	11	-99.8	5,523	1	-100.0	416	2	-99.5	343	8	-97.7
英国	49,580	101	-99.8	41,325	24	-99.9	5,845	12	-99.8	2,410	65	-97.3
フランス	26,530	116	-99.6	20,157	12	-99.9	3,725	10	-99.7	2,648	94	-96.5
ドイツ	22,768	93	-99.6	16,328	12	-99.9	4,537	23	-99.5	1,903	58	-97.0
イタリア	13,354	68	-99.5	10,551	9	-99.9	1,784	11	-99.4	1,019	48	-95.3
ロシア	10,454	61	-99.4	7,261	5	-99.9	2,085	4	-99.8	1,108	52	-95.3
スペイン	11,472	65	-99.4	9,942	6	-99.9	808	15	-98.1	722	44	-93.9
中東地域	8,678	173	-98.0	6,863	3	-100.0	1,071	4	-99.6	744	166	-77.7
その他	118,152	2,141	-100.0	83,093	71	-100.0	15,497	168	-100.0	19,562	1,902	-99.9

出所: 日本政府観光局(JNTO)、2020年12月16日付より筆者加工

注) 目的別訪日外客数の定義については、図2注参照。